

a 学校教育目標	「自ら伸びる とともに伸びる 子どもの育成」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	自分を愛し、夢を語る児童の育成 小中一貫教育を進め、小1プロブレムや中1ギャップのない、子どもの通いたい学校、保護者が通わせたい学校づくり
----------	------------------------	----------------------	----------------------------------	--

評価計画				自己評価						改善方針		学校関係者評価	
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	達成度	評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	評価	コメント	
					h 達成値	h 達成値							イ
確かな学力	◎幸崎思考力を育む授業改善による、学力の向上【単元末テスト児童アンケート肯定的評価80%以上】	【授業改善】 ①3つの自己選択・自己決定の力(思考スキル・ツール、ICT、学習形態)を鍛える場の設定 ②ホワイトボードICTを活用した協働的なグループ学習の展開(幸崎モデルの構築) ③幸崎っ子10の姿を視点とした振り返りの充実	単元末テスト	平均得点率80%以上	100%	100%	125	A	2学期単元末テストの結果は、国語科が85.2点、算数科が80.3点であり、達成度は100%であった。「幸崎っ子10の姿」を振り返るアンケートは、10項目中8項目が肯定的評価であった。 (成果) 学習形態を自己選択したり、ICTを積極的に活用したりすること、また、自律型学習「幸崎モデル」の学習を通して、児童がこれまで以上に生き生きと学習に向かう姿が見られた。さらに、国語科、算数科において、児童からの問いで学習を進めることができるようになってきた。 (課題) 児童アンケートから、幸崎6を使って意見を述べる、目的に合った思考ツールを活用して考えることが難しいことがわかった。授業の中で効果的に活用させることができなかったと考えられる。また、思考力・活用力の問われる問題に課題がある。筋道立てて考えたり、考えを順序立てて書いたりする力が身に付いていないと考える。	○思考力・活用力を身に付け、学びに向かう力を育成するための授業改善を図る。 ①授業の中で、自分の考えをもつ時間の確保、書かれてあることの意味理解、根拠を挙げながらの説明を意識づけることで、論理的に考える力を育てる。 ②毎時間、学んだことを接続詞を用いて80字以内で書く活動を設定することで、まとめる力を育てる。 ③単元を通して獲得した知識を提示したり、自分に合った思考の仕方を選択できる学習環境を設定したりすることで、児童同士の協働的な学びの充実を図る。	○	○一人の課題に対して、個人・全体・グループで問題解決に向けて取り組んでいると思います。 ○基礎学習を今まで以上に丁寧に指導して頂き、低学年は応用につなげていただきたいです。中高学年はクロームブック等の活用で、自己肯定感の向上、また、自己表現の能力向上に努めていただきたいです。	
			児童アンケート	肯定的評価80%以上	80%	80%	100	A	国語科、算数科の幸崎検定テストを実施し、学級としての課題や個別の支援が必要な実態を把握した。 (成果) 授業やモジュール時間において、複数教員で個別指導を行ったり、習熟度別学習を実施したりすることで、個別の支援が必要な児童に対しての校内体制が整い、きめ細やかな支援を行うことができています。 (課題) 検定テストを実施した結果、各学年で身に付けさせるべき力が定着していないことがわかった。基礎基本の徹底が甘いこと、粘り強く考え抜く力が乏しいことが考えられる。	○基礎学力の徹底を強化する。 ①各学級において、朝やモジュール時間を活用するなどして、四則計算や漢字の定着を図るような問題を繰り返し行い鍛えることで、基礎的・基本的な力の定着を図る。 ②児童の興味・関心に応じた課題を設定したり、個々の学力に合わせた課題を選択したりすることで、全ての児童の学びを個別最適化してその充実を図る。 ③個別に支援が必要な児童に対しては、引き続き複数教員で指導を行った後、放課後などの授業時間以外でも学習時間を確保するなどして、学校体制として継続的に取り組んでいく。	○	○思考力を伸ばすために、思考ツールやICTの活用を継続してこられたことで、成果が上がっていると思います。 ○クロームブックに頼るだけでなく、辞書等アナログ教材も使用されているのも評価できます。 ○基礎学力の底上げは必須であり、今後も方法について検討してください。 ○どの学年も80%超えているのが重要であると思います。全ての学年の底上げを、今後も継続してほしいです。 ○C層の児童をどれだけB層に上げられるかが重要です。丁寧な個別指導は、そこにつながっていくと思います。 ○小学校の時から、ICTに触れておくことは非常に重要であり、幸崎小での取組は効果が出ていると思います。	
		ICTの活用【マイプレゼン年3回以上】	マイプレゼンの実施	年3回以上	現段階100%	100%	100	A	どの学年も、JAMボードやスライドを使いながら、自身の体験や成長を発表することができた。 (成果) 日々のタイピング練習を各学年で進めたことで、クロームブックを扱って児童が効率的に作業を行えるようになってきている。また、人前で発表する練習を学校生活のあらゆる場面で取り入れたことで、プレゼンテーションをすることが上手になってきたと職員室で話をする学年もあった。 (課題) プレゼンテーションができるといっても、どの学年がどこまで力をつけておけばいいのか基準があいまいだった。	○情報活用能力自体の質の向上 ①各学年で育成すべき資質・能力を発達段階に応じた具体的な子どもの姿で設定することで、一人一人のプレゼン能力の質を高める。 ②タイピング練習を引き続き行い、情報活用能力の基礎力の向上を図る。 ③情報モラル教育を、文部科学省の学習サイトやNHK for Schoolを扱いながら指導していくことで、情報化社会で自律的に生きていく心性を育む。	○	○文化フェスティバルの完成度が高かったと思います。 ○クラスの人数が減っていく中で、一人一人の力比重が増すので、やりきった感を各々がもてると思います。 ○リーダー・各担当者主体で、児童の自主的な行動を行うことで、自身の自己肯定感向上につながり、他との協調性も高まると思います。 ○各学年の違いに着目し、発達段階に応じた活動を仕組むことで、親和性がさらに高まると思います。縦と横のつながりを意識して今後も取り組んでください。	
豊かな心	◎親和性の高い集団づくり【HyperQU・全児童学級生活満足群へ】	【目指す姿に向けたPDCA】 ①学級チャレンジ……学級目標の設定と評価活動 ②幸崎っ子 10の姿の設定と共有化	HyperQU	児童肯定的評価85%以上	88%	87%	102	A	ハイパーQUによる、親和性を図る項目における達成率は87%であった。 児童アンケートによる肯定的評価は98%であった。 <成果> 縦割り班活動では、児童会本部主催の「2学期がんばったね会」で実施した逃走中、図書委員会主催の秋の読書祭り、運動保健委員会主催の縦割り班対抗のレクリエーションゲームなど、それぞれ児童自らが企画・運営して主体的に取り組むことができた。その中で、班長が中心となって声をかけたり、班で本気で交流したりする姿が見られ、親和的な関係性が一段と育まれた。 「幸崎文化フェスティバル」では、オープニングとエンディングを企画・実行する実行委員制度では主体的に取り組む姿が見られた。また、スポーツフェスティバルに引き続き、1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生で行う中で、切磋琢磨しながら最後まで諦めずに関わり、親和的な関係性をさらに構築することができた。 <課題> 縦割り班では親和的な関係性が構築されたが、学級によっては、肯定的評価の低い児童がいた。これは、学級チャレンジ等を活用した学級における「横のつながり」を深める取組が不十分であったからであると考ええる。	○役割分担を明確にした縦割り班活動の充実 来年度、内容をブラッシュアップしながら、様々な児童にリーダー経験の場を持たせ、それぞれが目的に向かって取り組むことで多様な仲間と協働できる親和性を高めていく。 ①児童会本部主催…1年生を迎える会、遠足、1・2学期頑張ったね会 ②各委員会主催…各委員会が主催する縦割り班活動 ③スポーツフェスティバル、文化フェスティバル、幸崎小ファミリーフェスティバル ○親和的な学級経営に取り組む ハイパーQUの分析から、学級経営の研修が必須であるといえる。下記3点について重点的に取り組んでいく。 ①学級チャレンジと行事を関連付け、仲間と本気で協働して成し遂げる経験を積むことで、横のつながりを深めていく。 ②日々の授業の中で、共感の学び合いを実践し、互いに認め合い感謝し合える仲間づくりをする。 ③特別支援の視点を経営に取り入れ、個に応じた指導を徹底する。	○	○文化フェスティバルの完成度が高かったと思います。 ○クラスの人数が減っていく中で、一人一人の力比重が増すので、やりきった感を各々がもてると思います。 ○リーダー・各担当者主体で、児童の自主的な行動を行うことで、自身の自己肯定感向上につながり、他との協調性も高まると思います。 ○各学年の違いに着目し、発達段階に応じた活動を仕組むことで、親和性がさらに高まると思います。縦と横のつながりを意識して今後も取り組んでください。	
		◎縦割り班・異学年を軸とした自治的な学び【児童アンケート肯定的評価80%以上】	児童アンケート	児童アンケート肯定的評価80%以上	82%	98%	122	A	縦割り班・異学年活動 ①幸崎スポーツフェスティバル・幸崎文化フェスティバル ②児童会本部を中心とした自治活動の充実 ・縦割り班遠足 4月・3月 ・学期ごとのがんばったね会 ・縦割りフェスの実施(本部・委員会)	○全児童参加の運動する機会を確保し(毎週火曜と木曜の大休憩)楽しみながら体力の向上を図る。 ①大縄跳びを縦割り班で取り組み、教え合いながら楽しく運動する。そして、全児童で達成する目標を定め、達成状況を掲示することで意欲を高める。 ②全児童で5分間走を行い、体力の向上を目指す。その際、マラソンカードに走った距離を記録して評価することで意欲を高める。 ③1分間跳び続けることを目標に、体力の向上を目指す。	○	○怪我防止のためにも、準備運動を念入りに行って、体力向上につなげてもらいたいです。 ○一人では大変だが、仲間となら頑張れることにチャレンジしてほしいです。 ○やはり、子供の意欲を高めることが非常に重要だと思います。自ら「頑張りたい」と思える手立てを、今後も継続的に取り組んでいってください。	
健やかな体	○運動に対する意欲の向上【学年平均値が全学年UPする】	○体を動かすことを楽しませ、体力を向上させる。 【学年平均値の向上率90%以上】	学年平均値	学年平均値の向上率90%以上	—	91.0%	101	A	反復横跳びの達成率は100%、ソフトボール投げの達成率は、83%であった。 <成果> 体育の授業で、サーキット運動で敏捷性を高める運動などを継続的に行ったことや、準備運動の代わりに鬼ごっこなどに取り組んだことで反復横跳びの記録向上につながった。同じくサーキット運動で、投げる動きを取り入れた運動を継続して実施することでソフトボール投げの記録の向上につながった。 <課題> 平均値は伸びたが、全児童の記録が更新されていない。全児童と一緒に運動する機会が少なかったことや、運動が苦手な児童への指導・支援が不十分だったことが原因と考えられる。	○コミュニティスクールの導入により郷土愛をさらに醸成する。 ①学校でのこれまでの様々な教育活動を、地域と共に企画したり、実行したりすることで、地域の方や地域の事に関わる機会を増やす。 ②お手紙などの見える形での感謝を伝える活動を今後も充実させていくことで、地域との関わりや感謝の気持ちを視覚化し、伝えることの大切さを実感できるようにする。 ③総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメントを行い、地域資源のよりよい活用方法を模索し、地域学習のさらなる充実を図る。	○	○コミュニティスクールは郷土愛となるかはわかりませんが、自分たちが生活育っていく地域を知り、自分たちがその中で共に活動することができるように交えていきたいと思っています。異学年交流や地域の方と関わることを大切にして、幸崎愛を今後も継続して育成していただきたいです。	
		○小中一貫・地域協働による教育活動の充実を図り、郷土を愛する心を養う。【一校一貫】【小中一貫教育】	◎幸崎の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。【児童アンケート肯定的評価80%以上】	児童アンケート	自分や友達、学校や地域に対するアンケート項目の肯定的評価80%以上	83%	88%	110	A	児童アンケートの結果は「自分や友達、学校、地域が好き」が93.7%、「よさが言える」かの項目が87.5%であった。 <成果> 上半期同様縦割り班や小中連携による異学年での学びを、生活や授業、文化フェスティバルなどの行事で取り組むことで、自分やその周りとの多様な関係が育まれ、自分や友達、学校や地域に対する愛着が高まった。 <課題> さらに地域とのかかわりや地域学習を充実させることで、地域に対する誇りを持つ児童を育成していく。	○来年度、チーム幸崎としてさらに業務改善を図り、時間外勤務を減らす。・成果を挙げた取組を継続しながら、以下の3点について重点的に取り組む。 一人一人のキャリアプランを明確にして職務を任せること、主任を中心に自律的に部を運営できるようにすること、適宜適切な指導・助言をすることを通して、職員一人一人のモチベーションを高めることができた。そして、職員室でのOJTが活性化され職員の協働性が深まる中で、職員の「チーム感」が醸成された。その結果、業務の効率化と平準化が進み、本校における業務改善が着実に成された。	○	○無理・無駄・ムラをなくして、効率よく業務遂行につなげていただきたいです。 ○これからも地域との関わりを大切に取組を進めてほしいです。 ○Ipadを全ての職員が持つことで業務の効率化が推進し、業務改善につながると思います。
地域に信頼される学校	○チーム幸崎として、業務改善を図る。【時間外勤務時間目標総率100%】	○在籍時間を短縮する。 【年間平均45時間以内の職員100%】	時間外勤務時間数	年間平均45時間以内の職員100%	100%	100%	100	A	時間外勤務時間数、年間平均45時間以内の職員は100%であった。 <成果> 一人一人のキャリアプランを明確にして職務を任せること、主任を中心に自律的に部を運営できるようにすること、適宜適切な指導・助言をすることを通して、職員一人一人のモチベーションを高めることができた。そして、職員室でのOJTが活性化され職員の協働性が深まる中で、職員の「チーム感」が醸成された。その結果、業務の効率化と平準化が進み、本校における業務改善が着実に成された。	○来年度、チーム幸崎としてさらに業務改善を図り、時間外勤務を減らす。・成果を挙げた取組を継続しながら、以下の3点について重点的に取り組む。 一人一人のキャリアプランを明確にして職務を任せること、主任を中心に自律的に部を運営できるようにすること、適宜適切な指導・助言をすることを通して、職員一人一人のモチベーションを高めることができた。そして、職員室でのOJTが活性化され職員の協働性が深まる中で、職員の「チーム感」が醸成された。その結果、業務の効率化と平準化が進み、本校における業務改善が着実に成された。	○	○無理・無駄・ムラをなくして、効率よく業務遂行につなげていただきたいです。 ○これからも地域との関わりを大切に取組を進めてほしいです。 ○Ipadを全ての職員が持つことで業務の効率化が推進し、業務改善につながると思います。	
		◎幸崎の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。【児童アンケート肯定的評価80%以上】	児童アンケート	自分や友達、学校や地域に対するアンケート項目の肯定的評価80%以上	83%	88%	110	A	児童アンケートの結果は「自分や友達、学校、地域が好き」が93.7%、「よさが言える」かの項目が87.5%であった。 <成果> 上半期同様縦割り班や小中連携による異学年での学びを、生活や授業、文化フェスティバルなどの行事で取り組むことで、自分やその周りとの多様な関係が育まれ、自分や友達、学校や地域に対する愛着が高まった。 <課題> さらに地域とのかかわりや地域学習を充実させることで、地域に対する誇りを持つ児童を育成していく。	○来年度、チーム幸崎としてさらに業務改善を図り、時間外勤務を減らす。・成果を挙げた取組を継続しながら、以下の3点について重点的に取り組む。 一人一人のキャリアプランを明確にして職務を任せること、主任を中心に自律的に部を運営できるようにすること、適宜適切な指導・助言をすることを通して、職員一人一人のモチベーションを高めることができた。そして、職員室でのOJTが活性化され職員の協働性が深まる中で、職員の「チーム感」が醸成された。その結果、業務の効率化と平準化が進み、本校における業務改善が着実に成された。	○	○無理・無駄・ムラをなくして、効率よく業務遂行につなげていただきたいです。 ○これからも地域との関わりを大切に取組を進めてほしいです。 ○Ipadを全ての職員が持つことで業務の効率化が推進し、業務改善につながると思います。	

本年度の重点目標については◎印で示す。

【: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。